

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆日立や東芝など8社、対米投資に「関心」 首脳会談にあわせ公表

・日米両政府は日米首脳会談にあわせ「日米間の投資に関する共同ファクトシート」を発表した。原子力発電などのエネルギー、人工知能(AI)向けの電源開発、AIインフラ強化、重要鉱物の4つの投資分野を列挙した。日本企業8社が「プロジェクト組成に関心」を持っていると明らかにした。日立や東芝、パナソニックなど。

◆余暇市場24年は6%増、コロナ禍前上回る レジャー白書

・日本生産性本部は「レジャー白書2025」を公表した。観光やスポーツ、ゲームなどの余暇を楽しむ産業の2024年市場規模は、前の年に比べ6%増の75兆2030億円となった。物価高による単価上昇や訪日客の需要が伸びた。新型コロナウイルス禍前の19年と比べても4%上回った。

◆75歳以上の医療費「3割」対象拡大再燃 給付抑制も現役保険料に影響

・厚生労働省が高齢者の医療給付と負担の見直しに向けた検討を始めた。選択肢の一つにあがるのが、病院などの窓口で医療費の3割を負担する対象者の拡大だ。負担の公平性を高める半面、現役世代の保険料負担を押し上げる可能性がある。過去に見直しを見送った経緯があり、実現への課題は少なくない。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆トクラス、キッチン特化型ショールームを東京・京橋に1月オープン

・トクラスは1月5日、東京都中央区京橋の「第一生命京橋キノテラス」内に、システムキッチンに特化した新しい体感型ショールーム「TOCLAS SALON TOKYO(トクラスサロン東京)」をオープンする。ものづくりの思想や歴史を伝える展示も設け、ブランドへの理解と共感を深める場とする。「一生もの」の水まわり選びをサポートしていく。

◆住宅用の北米産木材価格、9四半期ぶり下落 日本の建築需要に不安

・住宅に使う北米産木材の対日価格が9四半期ぶりに下落した。10～12月期の価格は7～9月期に比べ約4%安い水準で決着した。日本国内の木造住宅の需要の先行きが不安なことを受けて日本側がカナダの製材業界に求めた値下げが受け入れられた。建築資材高や工事現場の人手不足に伴う停滞を映した。

◆大林組が建設現場に「快適休憩所」 カフェ風、シャワーや仮眠スペース

・大林組は建設現場の作業員が快適に過ごせるよう整備した「快適休憩所」を報道陣に公開した。シャワー室や食事などを提供する無人売店などを設置したのが特徴。人手不足が深刻な建設業界で職場環境を改善して「3K(きつい、汚い、危険)」という従来イメージを和らげていく。江戸川の水閘門(こうもん)工事の現場に整備。

《 注目商品 》

■パナソニック、「脱・脱衣所」「多用途」な洗面化粧台

・普及価格帯の洗面化粧台・C-Lineから、多用途に使えるカウンター長さを確保し、洗面台下の自由度を高めた新プラン「フロートワイドカウンタープラン(Wall to Wallタイプ)」を発売。最大対応幅1700mmのロングカウンターを採用。収納の引き出しをつけず多目的に使える。



■シャープ、「つけかえどっちもドア」搭載プラズマクラスター冷蔵庫

・シャープは、独自の「つけかえどっちもドア」を搭載した冷蔵庫3機種を発売。179L/152Lのコンパクトな容量帯で、單身世帯におすすめ。冷蔵庫の設置場所にあわせて、ドアの右開き・左開きを選択することが可能。部屋の模様替えや引っ越しなどで設置場所が変わっても安心。



■LIXIL、テラスドアとFIX窓をセットにしたパノラマドア

・アルミ樹脂複合窓「TW コンセプト」の第二弾としてテラスドアとFIX窓がセットになったパノラマドアを発売。熱貫流率1.14W/(㎡・k)の高断熱性能を備え、スリムフレームでガラス面積を最大化することで、採光性と眺望性を確保。高さは1750～2430 mm、幅は1340～4000 mmに対応。

